

## 本日のプログラム

2023年12月13日(水)  
通算第3060回例会  
本年度第17回  
瀬戸商工会議所  
例会次第

- ・開会点鐘
- ・「それでこそロータリー」
- ・出席状況
- ・会長挨拶
- ・行事
- ・祝福
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・その他の報告
- ・卓話

瀬戸警察署長 青山義弘様  
「瀬戸市の治安情勢など」



## 第3058回例会 会長 青山 稔君 挨拶

皆さんこんにちは。本日は第3058回本年度15回目の例会です。本日のゲストをご紹介します。株式会社大竹製作所 代表取締役社長 大竹敬一様です。大竹様は、あまRC所属のロータリアンであります。後程、「日本の農業の今とこれから」というタイトルで卓話を頂戴致します。大竹様、宜しくお願いいたします。

さて本日は、来年2024年2月25日(日)に行われます、第2760地区東尾張分区IM(インターシティミーティング)のPR動画が送られてまいりましたので、後程ご覧頂きたいと思っております。本年度IMは名古屋城北RCのホストにより、ヒルトン名古屋で執り行われます。例会変更、全員登録は理事会で承認されております。会員の皆様方に於かれましては、何かとご多忙とは思いますが、ご出席頂きますようお願い致します。

本年度は、私的には、東尾張分区12RCの結末は大切であると思っておりますが、中でもやはり、名古屋市北東部の4RC、瀬戸RC、尾張旭RC、瀬戸北RC、愛知長久手RCは特に仲良くやっていきたいと思っております。年度が始まる前から4RCの会長幹事のLINEグループを作りまして、色々な情報交換が随時できるようになりました。我がクラブの鈴木幹事が中心になってLINEグループを作ってくれました。

不定期に行われます4RC会長幹事懇親会の日程調整やら、場所決めなどに使っておりますが、先日、尾張旭RC谷口亜矢幹事から、彼女のやってみえる

事業所の子供たちが、愛知長久手RCの伊藤広治会長に芋ほり体験をさせて頂いておりますというニコニコ顔の写真付きの投稿がありました。すぐさま、伊藤広治長久手会長から、お疲れさまでした、畑ではしゃぐ子供たち、かわいいですよ、と投稿されてきました。すごく良いつながりだなと、写真を見てほのぼのとした気持ちになりました。クラブを超えたつながり、大事なと感じた一コマでした。私も今ここで〇〇食ってます的な投稿は控え、実のある投稿しなくては！と思いました。

さて、今週に入り寒さがいっそう厳しくなってきました。どうか皆様、ご自愛頂きますようお願いいたします。本日の会長挨拶とさせていただきます。本日も宜しくお願い致します。

## 12月6日 学友会打ち合わせ



## 前回例会 記録

- ・2023年11月29日第3058回例会
- ・場所 瀬戸商工会議所
- ・出席報告 54名 出席会員41名  
当日出席率 87.23%
- ・行事
- ・ご夫人誕生日  
平松 啓君 ご夫人由美子様
- ・結婚記念日  
稲垣 孝幸君 松本 哲也君  
加藤 令吉君 高橋 信郎君  
加藤 光哉君
- ・卓話  
(株)大竹製作所 代表取締役社長  
大竹 敬一様  
「日本の農業の今とこれから」

## 例会予定

- 12月20日(水)  
・年次総会  
・クラブフォーラム
- 12月27日(水)  
休会
- 1月3日(水)  
休会
- 1月10日(水)  
休会

(株)大竹製作所 代表取締役社長 大竹敬一様  
「日本の農業の今とこれから」



ご紹介いただきました大竹製作所の大竹と申します。今日は江坂先生からお話をいただき、伝統ある瀬戸ロータリークラブで卓話をさせていただくことになりました。気楽にお引き受けしたのですが、大先輩や青年会議所時代の知り合いの方も多く、緊張をしております。

私は、1953年7月21日生まれの70歳で、7に縁がある生まれです。大学を卒業してすぐに大竹製作所に入社し、現在に至っております。入社早々に会社からアメリカ・ミシガン州に遊学に行かせていただきました。(ほとんど勉強はしておらず大学院中退です)

2008年にあまロータリークラブに入会しました。あまロータリークラブは父である大竹和美が初代会長を務めており、私は2018～2019年度に第50代会長を仰せつかりました。「初代の息子が50代というのは面白いじゃないか!」という諸先輩のノリで会長をさせていただいたと言う訳です。江坂正光先生とは、名古屋JC、丸八会を通じて親しくさせていただいています。加藤令吉先生とは、とても深いご縁をいただいています。お父様の加藤鈔先生と父・大竹和美はCBCクラブなどで親しくさせていただいてたとお聞きしています。令吉先生が瀬戸JCの理事長をされたときに私は名古屋JCの副理事長として懇親ゴルフでたまたま同じ組でプレーをしました。以後急速に親しくさせていただくこととなりました。今も令吉先生の応援団の一人です。

会社の紹介をさせていただきます。1911年お米の皮をむく土臼を製造することにより、祖父の兄・大竹俊翁が祖父・大竹永一とともに創業しました。その後約60年間は脱穀機専門メーカーとして営業し、現在は水田用除草機、溝切機、インペラ糶摺り機などを製造、販売しています。

さて、日本の農業は成長産業と言われていますが、現実に

は厳しい問題に直面しています。日本の食料自給率が低いことは周知と思いますが、カロリーベースで40%弱、金額ベースで60%弱です。コメ以外の穀物を殆ど輸入に頼っているのは問題だと思います。であるにもかかわらず、国内の耕地面積は減りつつありますし、耕作放棄地の面積は耕地面積の10%にも達しています。しかも耕作放棄地の多くは中山間地と呼ばれる地域にあります。ブランド米で有名な新潟県魚沼地区も中山

間地にあたりますが、本来このような地域は良質な農作物が産出される地域でもあります。このような地域への助成、担い手の育成などの政策も望まれることと思います。

担い手不足、農業者の高齢化、農業従事者の減少は、もっと大きな問題です。1960年ころに1500万人くらいだった農業者は、現在その10分の1ほどに減っています。アメリカをはじめ多くの農産国でも補助金を農業に支出しているように農業を儲かる産業としてとらえるのは非常に難しいと思います。前向きな農業者に前向きな助成をする、きめ細かな農業政策を望みます。

農業機械メーカーも厳しい状況の中、農業の更なる省力化、高品質な農産物生産に資することを目指し努力をしています。1970年代には20万台くらいあったトラクターの販売台数は直近では5万台を切っています。私どもが製造している糶摺り機も1980年ころには8万台くらいであったのが現在では1万台以下です。そんな中で政府が提唱している新しい時代の農業にこたえるべく各メーカーは製品開発に努力をしています。一つにはスマート農業の推進です。これはロボット技術やAI、ICTなどの最新技術を活用して、農業の省力化・高品質生産・環境負荷低減などを実現する新たな農業のことで、無人トラクター、ドローンといった技術が実用化されています。

農水省では、さらに「みどりの食料システム戦略」と称して、農業機械の電動化や減農薬、有機肥料化などを通して農業の生産性向上と環境の持続性を両立させようとするものです。言葉では簡単ですが、総体的に数値目標を達成することは極めて困難だと思います。我々各メーカーは自分の得意な分野で、その方向に合致する機械を開発する努力を続けることだと思います。

大竹製作所としては、国の大目標は大目標として、創業以来続けてきた独自の視点をも守り続け事業の継続を図っていきたく考えています。その一つが「高品質で安全な農産物の生産に役立つ機械」です。もう一つは「今や中心的担い手の高齢者が安全に使える使いやすい機械」という視点です。忘れられがちな中山間地の小規模農家も含め、農業者が日本の農業を守っていこうと前向きになれるような機械の開発にこれからも努力します。ご清聴ありがとうございました。

## ニコボックス報告(第3058回例会)

中身の無い卓話に貴重なお時間をいただくお詫びとして……。あまRC大竹敬一

(株)大竹製作所 代表取締役社長 大竹敬一様、ようこそお越し頂きました。本日の卓話、どうぞ宜しくお願い致します。会長 青山稔、幹事 鈴木光彦 家内の誕生日をお祝い頂きありがとうございます。平松啓 結婚37年となりました。お祝いいただきありがとうございます。稲垣孝幸 結婚記念日をお祝い頂きありがとうございます。松本哲也 今年も無事結婚記念日を迎える事が出来ました。夫婦そろって健康が一番です。加藤令吉 結婚記念日をお祝い頂きありがとうございます。高橋信郎

65回目の結婚記念日を無事迎えることができ皆さんに感謝申し上げます。

加藤光哉

親愛なる大竹敬一君ようこそお出掛け下さいました。今回の卓話を楽しみにしています。加藤令吉

小野さん、先日はお世話になりました。有り難うございました。山口記由

(株)大竹製作所 代表取締役社長 大竹敬一様の卓話を楽しみにしています!

青山貴彦、一山清二、稲垣孝幸、井上博、江坂正光、大竹一義、刑部祐介、小野隆浩、梶野輝雄、勝谷哲次、加藤一夫、佐春加藤克己、カネ三加藤克己、加藤定江、加藤捷、加藤唐三郎、加藤眞言、加藤光哉、金谷康正、小林稔、鈴木紹陶武、鈴木政成、高橋信郎、田中靖達、富田康太、藤田哲安、松村晋也、山口記由、山本英雄、柚木猛